

【資料】学会発表の要旨

「セロリベビーリーフ中の第二相解毒酵素誘導物質について」

○武藤知衣¹、吉田絃子¹、森光康次郎¹、久保田紀久枝¹、内田浩二²、六角啓一³、田口拓郎³、田口裕基⁴

(¹お茶大・食物栄養、²名大院・生命農学、³タキイ・研究農場、⁴エスビー食品・商品本部)

【目的】ベビーリーフは、手軽さと健康志向の高まりから近年消費量が増えている食材の一つである。本研究では、ベビーリーフの示す生理活性スクリーニングの結果から、発がん抑制に関与すると考えられている第二相解毒酵素誘導活性に注目し、野菜間・品種間の比較と誘導活性物質の探索を目的とした。

【方法と結果】47品種のベビーリーフについて、第二相解毒酵素誘導活性をRL34細胞にて測定した。その結果、セロリベビーリーフに高い誘導活性が認められた。そこで、セロリの品種間と生育段階別の誘導活性を比較した結果、品種によって活性に大きな差は認められなかった。セロリシードやルートにおける誘導活性は現在検討中である。次に大量のセロリ抽出物を分画し、誘導物質を単離、構造解析した結果、セダネノライドであると同定した。本物質は、セダノライド、3-ブチルフタライドとともにセルリーの特徴的な香り成分でもある。セダネノライドの第二相解毒酵素誘導能は本報告が初めてである。現在、マウスを用いた *in vivo* 実験について検討中である。